



約1年の工事期間を経て改装になったせきすい斎苑の落成式が、南関町・和水町の両町長をはじめ関係者が参列し3月30日に行われました。せきすい斎苑の詳細については広報なんかん5月号に掲載されましたので、ご参照ください。



すが、昭和30年の町村合併を機に坂下村の現地火葬場を南関町営の火葬場とし、昭和42年からは旧菊水町との共同火葬場としての運営が始まりました。昭和58年には改築前のせきすい斎苑が誕生しました。時は流れ、和水町合併後も利用されていた和水町斎場（旧三加和町営火葬場）の老朽化問題と築30年を超えるせきすい斎苑の改築が課題として生まれ、平成23年から両町で組織する連絡協議会において検討が始まり、今回の統合改装の運びとなりました。



火葬と土葬

キリスト教やイスラム教を信仰している国では土葬が一般的です。コロナウイルスで亡くなって、アメリカやブラジルからのおびただしい数の埋葬されている様子の映像が記憶に残っている人も多いでしょう。ヒンドゥー教徒の多いインドでは火葬が一般的で、お隣の中国と韓国は儒教的考えから土葬が主流だったそうですが、今では半数近くが火葬になってきたと言うことです。では、日本はどうでしょう。仏教が主流の日本でも昭和初期までは土葬が一般的だったようです。それは火葬が燃料と時間がかかり高価な葬送だったため。しかし、公衆衛生の面や土葬スペースの確保の難しさに加え火葬の技術が上がり、燃料代や時間がかかるなどの課題が改善されていく中で火葬場も増えて行き、現在では葬送の99%以上は火葬になっています。ちなみに土葬をしてはいけないという法律はありません。



き、現在では葬送の99%以上は火葬になっています。ちなみに土葬をしてはいけないという法律はありません。

支出金額から見る火葬

これまでの支出金額（内訳は人件費、固定費、消耗品費）は過去10年間の平均が1160万円。うち南関町負担額が693万円。総支出金額の比率の約60%を負担しており、火葬個体数の比率となっています。

今後は、旧三加和町営火葬場の分が増えるので年間支出金額を1500万円と見込み、負担比率は40%前後となる見通しです。



火葬料金は平成10年まで無料。平成11年から令和2年まで現行の料金でしたが、今回のリニューアルオープンに合わせて維持管理、運営経費にかかる利用者負担の適正化を図るために新火葬料金が旧料金の2倍となりました。委員会では、一気に2倍に上がる事に対して質疑を重ね了承しました。

南関町の火葬場

南関町の火葬場についての資料は残存していません。それぞれの村に火葬場はあったようで

近隣自治体の火葬料金

	せきすい斎苑	長洲町	玉名市	山鹿市	荒尾市
12歳以上の者	12,000円	12,000円	19,400円	20,300円	6,000円
12歳未満の者	8,000円	8,000円	14,600円	16,200円	4,000円

・一般質問の記事：質問した議員が1300文字程度に要約して執筆したものです。原文を尊重して掲載しています。
 ・発言が「～である」調に記載されていますが、質問・答弁共に「です・ます」調で発言されています。
 ・「会議録」は南関町図書館および町ホームページで閲覧できます。3月議会分は6月に公開予定。



副議長
文教厚生常任委員

境田敏高

境田「新型コロナウイルス感染症に伴う新たな支援策は」 町長「現在策定中である」

新型コロナウイルス感染症拡大に起因した経済活動の停滞を防ぎ、住民が潤い安心して生活ができるように新たな支援策について尋ねる。

(町長) 町民1人当たり5千円の商品券交付事業、事業費の3/4上限20万円補助の町内事業者の感染症予防対策事業を行い、3月18日までの期間でなんかんトップ関所の里シールラリーを行っている。国の第3次新型コロナウイルス地方創生臨時金交付金の活用についても、現在施策中である。更に実効性のある支援ができるよう計画を進めていく。

熊本市では県の営業時間短縮要請に応じた飲食店の取引業者などに対して、法人に一律20万円、個人事業者に一律10万円の支援金を給付するとしている。大津町でも飲食店の取引先やタクシー事業者、運転代行事業者に独自に一律10万円を給付するとした。わが町の飲食店の取引業者などの現状はどのように把握されているか。

また厳しい現状ならば、町独自の支援をすべきである。

(まちづくり課長) 取引が行われている町内事業者からの直接の相談は現在あっていない。取引事業者への影響という点では町が独自支援をする状況ではないのかなと考えている。

コロナ禍により県内の大学・専門学校も厳しい現状がある。アルバイトの収入減、解雇、仕送りが減り学費の支払いが厳しくなっている。また食事回数が減ったなどと金銭的にも精神的にも追い詰められている。わが町でも新たな学生の支援を行うべきではないか。

(教育長) 金銭的な補助の対応はしていない。具体的な取り組みというのは今のところ検討していない。

コロナの影響の長期化による失業が増え、困窮者への支援機関として生活困窮者の相談窓口「自立相談支援機関」への相談件数が3倍に急増しています。わが町での現状と課題を尋ねる。

(町長) 一時的な資金が必要な方への緊急小口資金の申請は令和2年の4月から9月までの6ヶ月で20件、10月から令和3年2月までの期間に11件である。緊急小口資金を受けても生活の立て直

しが困難な方に対しての総合支援資金の申請は10件である。今後も生活困窮者への十分な支援ができるように熊本県、町社会福祉協議会など関係機関との情報を共有し、民生委員をはじめとする地域の見守りネットワークを更に強化していきたい。

昨年商工会が小規模事業者の声を聴き、町に小規模企業振興基本条例案を提案され、審議の結果、わが町も南関町小規模企業振興基本条例が制定された。

町では小規模企業者が町における経済の発展に果たす役割が重要である。この基本条例は小規模企業者の保護、育成並びに振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進することにより、地域経済の活性化を図り町民の生活の向上に寄与する目的で制定された。1年を迎えようとしている。町の活性化のための町の責務である施策・支援は進んでいるのか。

(町長) 本条例制定により具体的な動きはいまだないが、昨年11月商工会役員と町との懇談会を開催し、意見や要望を伺った。いただいたご意見、ご要望を施策に反映できるものは反映するよう心がけている。



井下「里山の現状と今後について」 町長「荒廃が進む中、本町にあった条例の策定を検討したい」



文教厚生常任委員長
議会運営委員

井下忠俊

ここ数年に渡り里山・雑木林の荒廃が目につくようになった様に思えるが、このまま放置すれば森林と集落の境界が無くなる事による、生活環境の圧迫、更には有害鳥獣の被害にも拍車をかける事につながると思うが、どう考えているか。

(町長) 需要の変化、地主不在による放置、竹林の侵入、高齢化による人的課題などが原因として考えられる中、確かに荒廃している里山林が多く見受けられるようになってきている。そして、その荒廃がさらに進行していくのではないかと懸念しているところである。

今策を講じなければ、荒廃の進み具合では手に負えなくなると思う。現時点では、どの様な影響が出ているか。

(経済課長) 樹木の高木化、藪化、景観の崩壊や鳥獣害の問題、更には災害等も考えられる。特に今年の急激な豪雨では、道路への浸水で避難しようにも避難できない所もあった。

たしかに、昨年起きた大雨の被害も、洪水土砂流出による被害の一つだと考えている。また道路整備については、道路の外から雑木林の木々や枝が侵入してきている。この点については、建設課だけの問題ではないと思うが、課をまたいで検討出来ないか。

(建設課長) 道路整備に関しては、町の境界までしか出来ないのが苦慮しているところである。逆に山地側から手を入れてもらえば、また新たな対策の仕方が見えてくると思う。

(経済課長) 関係各課と協議をしながら、現場に応じた検討を行い適切な対応が出来るように努力している。



里山に対し条例を設け、適切な管理のために協定を締結して、特別な支援措置を講じているところもあるが、南関町はどうか。

(経済課長) 南関町においては森林組合に対し、森林整備に関する補助などは考えられるが、里山に特化した条例等は今の時点では思いあたらない。

実は『木々が茂って日が当たらなくなった』等の話をよく聞く。しかし、そこには地権者がいない・高齢の為手入れができない・又は業者に頼んでも、その費用の負担が大きい等の理由で解決に至っていないのが現実である。そこで「森林山村多面的機能発揮対策交付金」というのがあるが、南関町では活用されているのか。

(経済課長) 令和元年度から3組織が取り組んでいる。

個人でも利用できるのか。

(経済課長) 地域の住民・所有者・自治会等、3名以上での取り組みが条件となっている。

保全隊活動等の団体が申請すれば、新たな事業として活動できるのか。

(経済課長) 可能だと思う。是非、登録・活動してほしい。

まとめとして耕作放棄地等の田畑についての交付金事業はあるが、里山(雑木林等)については聞かない。この南関町では森林の保護も大事だが、荒廃していくことによる悪影響が遥かに大きいと思う。そういった事からも、今の南関町に見合った条例を制定し、困っておられる方達に対する支援策を講じてほしい。





議会運営委員会副委員長
総務産業常任委員
有明広域行政事務組合議員

立山秀喜

農地の復興遅れ

昨年7月の大雨でかなりの災害が出ているが、復興状況はどのようになっているか。町長の施政方針の中では令和3年3月で、公共災30箇所、農災32箇所出ているとの報告があったが、残りの方が多いわけである。被害に遭った方々が問題視している。特に農地においてはこれから、肥料・種子の注文をしていかなければならないので皆さん困っておられる。それでこれからどのような計画で災害復興計画が進んでいくのか連絡なり案内をして行くのが問題になってくのではないか。

(町長) 今回の豪雨災害については、被災された家屋の罹災証明書の発行や見舞金の交付、被害災害廃棄物の処分、大規模土砂崩れによる建物の解体や土砂の撤去、宅地や農地の土砂の撤去等、農地や林地公共施設の災害復旧工事に係るもの以外については、ほぼ復旧しているものと認識している。農地農業用施設については、国の災害査定に時間を要しましたので、これから着手することになる。小災害については、町の小災害復旧補助金を活用して、257件、

立山 「災害対策について、復興状況はどのように進んでいるか？」 町長 「令和4年度までの復旧計画として取り組んでいく」

85%の完了を受けている。

河川、農地の復興はどれくらいかかるか。

(町長) 南関町の被災した河川においては、18箇所すべて3月中に発注し、12月末までの完了を目指して準備をすすめている。農地においては、農業用施設と合わせて223箇所の被害があったので、令和4年度まで復旧計画としている。現在32箇所の発注準備を行っている。県が管理している関川については、南関町から荒尾市までの20km区間を対象として、令和5年までの4年間で災害復旧助成事業に取り組んで行くことになっている。



耕作放棄地の増加が止まらない

耕作放棄地が増えているように思えるが何か対策は考えているか。特に高齢化と農業だけでは生活ができない、災害が多くて耕作ができない、有害鳥獣が入ってきて耕作ができない、優良農地が少ない、後継者がいないなど問題はいろいろあると思うが対策を検討しているか。



(町長) 耕作放棄地問題については、国県の状況でも増加傾向にある。南関町においても同様で増加傾向にある。対策としては中山間地域における持続可能な村作りを進めると共に、農地の集積・集約等を継続的進めて耕作放棄地の解消に取り組んでいく。昨年3月に採択された農業競争力強化農地整備事業により町内18地区に事業を推進している。今後は地域の担い手を中心とした地域営農組織の推進及び企業の農地参入を促進しながら耕作放棄地を含めた農地の有効活用ができるように考えている。

まとめると、耕作放棄地を少なくするには基盤整備の推進、担い手、後継者の確保を行い農地の集積、機械の共同利用、共同作業を進めていく。災害復旧をする上では連絡は十分取り不安がないように進めて欲しい。



杉村 「小・中学校においていじめ等は発生していないか」 教育長 「学校のいじめ等の問題については最優先事項として対処」



総務産業常任委員
地方創生調査特別副委員長
有明広域行政事務組合議員

杉村博明

荒玉管内において、いじめによる「重大事態」が発生したが、当南関町において、いじめ等は発生していないか。

また、いじめの予防対策はどのように行っているかを伺う。

(教育長) 南関町の小・中学校でのいじめ等の発生については昨年11月に県内全児童生徒を対象に実施した心のアンケートでいじめられたことがあると回答した児童生徒は小学校18.8%、中学校2.4%だった。その中で学校の認知件数は小学校で今年度5件、昨年度6件、中学校は今年度0件、昨年度10件。今も継続指導中は小学校4件、昨年度は中学校2件であった。



次にいじめの予防対策について、まずいじめ未然防止の取り組みとして各学校には人権教育や命を大切に教育など基盤となる取り組みのほか生徒指導では、年間計画に(1)子ども同士の間関係づくり、(2)子どもと教師の信頼関係づくり、(3)教職員の一致団結した取り組み、(4)学校と保護者、地域と連携共同の4観点からの取り組みを位置付けていじめ問題に対する正しい理解をはじめ、児童生徒教職員、保護者間等の風通しの良い

関係づくり、更には多様な生き方価値観を認め合える学校づくりに努めていただいている。



また、いじめが起こった場合の対応では、いじめの早期発見、早期対応から解消ポイントになることから、子どもたちの状況を把握するために教職員の日常的な観察等での気づき、心のアンケートなどの定期、不定期の調査、計画的推治の教育相談、本人や友達家族からの訴えなどの情報収集にも努めるようお願いしている。

本年度はコロナ禍の中で長期間の自粛生活や行事の中止等で心のストレスを抱える子どもたちも多くその反動としていじめ等が増えるのではないかと気になっていた。

中学校では昨年度から改善傾向にあり、不登校児童生徒が増加している現状で生活リズム等の乱れが不登校の増加に繋がっている一面もあるのではと考えている。



また、ネット上で悪口を書いたり仲間はずれをしたことがあると回答している児童生徒も各校数名いて、SNS等の使用については家庭でのルール作りやフィルタリング設定等の課題も明らかになっているところ。



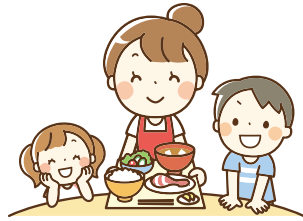
実際にいじめ等に該当する事案が起こった場合、教職員は複数体制で訴え状況をいじめを受けたほうもしたほうも同じスタンスで聞き取りをして、どういう状況であるか把握している。

むすびとして、いじめ等の問題は議会の中で質問をして、町民に南関町の教育はいじめ等に対して、どのような対策を行っているか伝わらないと思い、今回はいじめ等に関する質問を行い出来るだけ町民の方々に現状を知って頂きたいと質問した。詳細についてはぜひ議事録をご覧ください。

生の声を聴く

一般社団法人なんかん未来創造 とっば隊のみなさん

& 広報委員



議員 子どもたちの気持ちは都会を向いている。地元に残る選択肢を増やしていくこと、周辺を含めれば就職先もある。望む仕事を見つけ、勉強意欲を上げてほしいが、現状はどうか？

- 進学や就職で南関町を離れる子どもたちが多いと感じる。また、公立高校の定員割れもあり、子どもたちは勉強をする意欲が低下したように感じる。寺子屋教室では学習意欲を上げたいと思いつつも、まずは居場所作りにはなっている。いずれにしろ南関町が好きな子どもたちになってほしいと願っている。
- スマホをほとんどの子どもが持っている。ユーチューブを一晩中見ていたりしているので、保護者に時間管理をしてほしい。
- 6年前、塾に行ける子と行けない子の学力格差が出てきていたし、一人では勉強できないけど皆と一緒にできるという子の居場所を作ろうと思った。
- 小学校から少人数で仲良くしてきたことも競争意識の不足に繋がっていると思う。
- 進学先を見てもこの10年での変化が大きいと感じている。公立離れが進んでいる。
- 最近プロスポーツ選手になりたいという声を聞かなくなった。ユーチューバーになりたいという声を多く聞く。

議員 団体名を初めて聞く人も多いと思うので、会の紹介を。きっかけとなったこと、立ち上げ時の苦労や運営上の変遷なども。

理事長 令和2年2月、南関町の未来を見据えた地域貢献をしようと有志11名で『一般社団法人なんかん未来創造とっば隊（略称：とっば隊）』を立ち上げた。現在の主な活動は、中学生を対象とした「なんかん寺子屋教室」と、「朝ごはんを食べようプロジェクト」等。今後は子どもの居場所づくりや空き家に関する事業等にも取り組み、南関町が推進する「住んでよかったプロジェクト」に微力ながら寄与していきたいと考えている。

- 南関の未来を子どもたちと作って行きたい。若い世代と子どもたちが住みたくくなるような、南関町から離れたくないと思うような。そのため子どもたちへのサポートをしていきたい。
- 空き家を改修して若い世代が安価で住めるような仕組み作りができればと考えている
- 本当に自分達で南関町のことを考えて創造すべきだと共感して参加した。
- この会を通して様々な課題を共有しながらどう改善できるのか。ボランティアよりも一歩踏み込んで会を立ち上げた。



議員 これからやっていきたいことは？

- 経済的にも学力的にも困っている子どもたちのサポートをしてあげたい。まずはその居場所を作って行きたい。
 - 私たちの活動に対して、応援の声もあり背中を押していただいている。次なる世代に背中を見てほしい、感じてもらいたい。
 - 若者が自主的に野球チームを作った。そのメンバーにもまちづくりに関心を持って活動することを進めている。繋げることで、人が関わるのが大事と思う。
 - 子どものために活動する。子どもの変化は大人の影響が大きいと思う。子どもたちの笑顔を見たいのが一番。その思い一つで頑張っている。
 - 南関中で朝の食事提供は月1回実施しているが増やしたい。とっば食堂のスタッフは15名。6時半に集合して7:30から8:00まで提供している。
 - 子どもたちからの100円では足りなくて、補助金でぎりぎり出来ている状態。それでも続けて行きたい。
- 議員** こども食堂は、民間会社が支援している制度もあるので広く調べたほうがいい。

議員 NPOでなく一般社団法人にしたのは？

- 幅広い活動ができるように一般社団法人を選んだ。事業の範囲は、空き家管理、子どもの居場所作り、地域食堂、通学支援、耕作放棄地活用、鳥獣対策など、このような問題に皆が目を向けて、10年後20年後を見据えた活動をしていきたいと考えている。

議員 行政や政治に要望することは？

■ 運営費がないのが問題。そもそも儲けようとして立ち上げたわけじゃない。そのことは行政も理解されていると思う。一番は南関町の未来を創ること、子どもたちの将来のこととか考えながら活動をして行くので、行政と連携しながら、サポートもお願いしたい。

議員 継続していく為には、財源確保及び収支計画をしっかりと立てておくことが必要。事業計画立てる中で、補助金を受けるとしたら行政にとってのメリットを数字で明確化したが進めやすい。



議員 会の宣伝や町民の皆さんへのメッセージをどうぞ。

* とっば隊です！ よろしくお祈りします。

◆ **「なんかん寺子屋教室」** …自宅ではなかなか勉強がはかどらないなあという中学生に学習の場を提供しサポートしています。自分のペースで、自分のしたい勉強（宿題など）と一緒に頑張っていきたいと思っています。開催日等の詳細は中学校で配布して頂く「寺子屋だより」で確認してください。交流センターで開催しています。また、昨年度から各小学校にも参加対象を広げていますので、学校からのお便り等で確認し、保護者の皆様にはぜひ背中を押して頂けると嬉しいです。



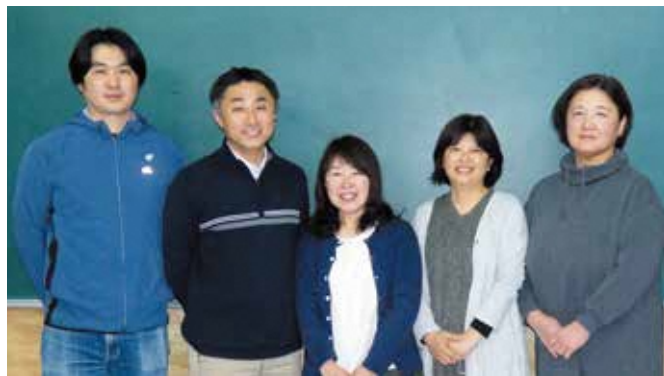
◆ **「地域食堂(通称:とっば食堂)」**…毎月第1金曜日に「朝ごはんを食べようプロジェクト」を開催しています。

対象は中学生で、詳しい内容と申込みは中学校内の掲示板で確認してください。楽しく朝ごはんを食べて元気に学校生活を送ってほしいと思っています。



事務所は南集会所を借用できたので、地域の皆さんにも利用して頂ける地域食堂（とっば食堂）を開催する予定です。そしてそこが「子どもの居場所」や、皆さんが安心して集まれる「地域の居場所（子育て相談も）」になればと考えています。

また、南関町の大きな課題である「空き家」を活用して若い世帯の定住を促進したい…など南関町の未来をサポートする活動を行政とも連携して実施していきます。



※左から

齋田 圭介さん(肥 猪)

三浦 雅善さん(下坂下)

理事長

日高香奈恵さん(上坂下)

大法真奈美さん(下坂下)

山口 明美さん(四ツ原)

全メンバー役員8名(顧問3名)の中から代表して5人に集まっていただきました。



* ご協力をお願いいたします。

これまですべてをボランティアで活動してきましたが、継続して活動するためには運営費が必要です。活動の趣旨をご理解、ご賛同していただける方は下記より応援寄付金のご協力をお願いいたします。食材などのご寄付もお待ちしています。

寄付金の申し込みは

とっば隊のホームページ➔

peraichi.com/landing_pages/view/toppatai/

または事務局(三浦) 090-9569-4485 まで。



「なんかん未来創造とっば隊」

の活動はInstagramで

ご覧いただけます➔



NANHAN.TOPPATAI

「生の声を聴く」を終えて…

未来に向けてのまちづくりをする民間会社我が町に誕生したのは、うれしいことです。

誕生したからには、町民の皆さんも「どうなるかね」と眺めているだけでなく、積極的に応援して、育てていく気持ちと行動が、この町の未来を作っていくことに繋がります。

我々も町民として、そして議員として出来る力を併せて応援していきます。



広報常任委員会

南関中2年 ふく はら あや ね 福原 彩音 さん



南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

私が考える、南関町の未来

私が考える南関町の未来は、赤ちゃんからお年寄りまでみんなが暮らしやすい町です。

特に、私たちと今から生まれてくる子供たちが仕事をできるように、安定性のある企業が多くなれば、若者たちの県外就職を防ぐことができます。南関町の人口減少を止めることができ、少子高齢化への対策にもなると思います。町全体でそのような取り組みを進めることで若手があふれる南関町、元気いっぱい赤ちゃんからお年寄りまでみんなが暮らしやすい素敵な南関町になることを願っています。

また、南関町のいいところは、自然が豊かで町民みんなが優しいところだと思えます。自然の豊かさを利用して、キャンプ場やいろんな人が利用できる公園をつくることで南関町の魅力を町外の方々に知ってもらえると思えます。

議会傍聴しませんか

3月定例議会の傍聴は、新型コロナウイルス感染症対策のため、報道関係者のみの制限をしました。

8日：2人、11日：2人

定例議会は、年に4回・・・3月、6月、9月、12月に開催。 ●通常はどなたでも傍聴できます。(定員 30人)

議会日誌

■ 1月

- ・ 1月14日(木) 総務産業常任委員会
- ・ 1月21日(木) 全員協議会
- ・ 1月25日(月) 議会運営委員会 臨時議会
- ・ 1月27日(水) 広報常任委員会

■ 2月

- ・ 2月17日(水) 文教厚生常任委員会
- ・ 2月18日(木) 総務産業常任委員会
- ・ 2月22日(月) 全員協議会
- ・ 2月26日(金) 議会運営委員会

■ 3月

- ・ 3月8日(月) 3月定例議会
- ・ 3月9日(火) 全員協議会
- ・ 3月10日(水) 全員協議会
総務産業常任委員会
文教厚生常任委員会
広報常任委員会
- ・ 3月11日(木) 3月定例議会
- ・ 3月16日(火) 広報常任委員会
- ・ 3月30日(火) 全員協議会 広報常任委員会

ティークレイク



卒業、入学

子どもの小学校卒業式、中学校入学式に保護者として出席しました。今年も、参加者の縮小や時間短縮など新型コロナウイルス対策の中で開催となりました。

今、学校生活において「例年どおり」のことができません。様々な制限の中ではありますが子どもたちや保護者の思い出になるような式でした。これも学校はじめ、PTAや関係者の皆様の協力によるものだと感じました。

今年の中学校の新入生は66名でした。10年前の平成23年の新入生は85名10年で19名減少しています。これから数年は60名前後入学予定ですが、少子化の影響は大きくなると思われます。少しでも少子化に歯止めがかかるように私たちも何か変えなければならぬと改めて思いました。

ただ、「来賓はいらんよね」という声が会場から聞こえて来たのは議員としてさみしいような気がしました。

(西田)



□ 発行責任者

議長 橋永 芳政

□ 編集(広報常任委員会)

委員長 中村 正雄
委員 北原 浩一郎

副委員長 西田 恵介
委員 鶴地 仁